

おきなわ・海歩き 第9回 海の危険生物を知ろう

鹿谷麻夕（しかたに・まゆ）

本土より1ヶ月早い梅雨が明けると、沖縄も本格的な海のシーズン。海に遊びに行く機会も増えることでしょう。その時に、どうしても知っておいてほしいこと、それが海で出会う危険生物です。

イノーを歩くと、いろいろな生き物を見つけます。ナマコやアオヒトデなどは、ぜひ触って感触を確かめてほしいのですが、中には触ってはいけない生き物があります。そしてそれらは決して珍しい生き物ではなく、しゃがんで手の届く場所に見つかります。そこで今回は、サンゴ礁の干潟、イノーを歩いて出会う、主な危険生物を紹介しましょう。

イノーが干上がって沖の方まで歩いていくと、肌色をした1~2センチのイボが岩の上に張り付いていることがあります。このイボ同士はくっついて岩の表面を覆う形に広がっていきます（写真1）。これはイワスナギンチャクというイソギンチャクの仲間です。スナギンチャク類は体の中に砂をためていて、干上がっているときは堅く縮まっています。この仲間、体内にパリトキシンという毒を持っています。特に卵の毒性が強く、産卵期の夏場は要注意です。しかもその毒性はサリンやダイオキシンよりも強いというのですから、決して触らないようにしましょう。

巻き貝の仲間にはイモガイと呼ばれるグループがあります。きれい



写真1 イワスナギンチャクの群體



写真2 毒針を持つシロアンボイナ（左・中央）とタガヤサンミナシ（右）

な模様を持つ種類が多いのですが、この仲間はみな肉食性で、獲物を仕留めるための毒針を持っています。中でもアンボイナの仲間（写真2）は小魚を食べます。近寄った小魚を毒針で刺して瞬時に体を麻痺させ、捕まえるのです。そのため毒は強く、人間が刺されても同じように神経が麻痺するので、手足がしびれ、呼吸困難を起こし、その結果浅瀬で倒れて溺れてしまったりします。アンボイナは昼間よりは夜見かけることが多いようですが、きれいな貝と違って手に取り、刺されたら大変です。貝殻の形を覚えて、これに似た形の貝には決して触らないことです。

イノーには手のひらに乗るくらいの小さなタコがいます。その中で、もし青い輪っか模様がきれいなタコを見つけたら、これも決して触らないこと。これはヒョウモンダコ（沖縄にいる種はオオマルモンダコ）の仲間で、体の下側、8本足の真ん中に口があり、そこで咬まれると神経性の毒が入ります。これも体が麻痺して死に至る危険性のある毒です。夜行性で、昼間は石などの下に隠れています。

食べると猛毒、という生き物もいます。みなさん美味しいカニはお好きですよ。でもサンゴ礁のカニは安易に採って食べないでください。フグ毒に近い毒を持ち、足一本分で致死量の毒、というカニがイノーには普通にいます。例えば、名前はユニークなスベスベマンジュウガニ（略してスベマン！）つるつとした甲羅の大きさは10センチくらい、楕円形で地味な模様のカニです。それから、これより大きなウモレオウギガニ（写真3）。タイドプールの岩穴の中に隠れています。オウギガニの仲間はサンゴ礁にたくさんいますが、基本的に毒を持っている可能性があります。



写真3 ウモレオウギガニは食べると猛毒！

次に、触るとケガをする危険な生き物を挙げます。黒くて長いトゲを持つガンガゼ（写真4）。あまりにとげとげしいので触る気は起こらないと思いますが、このトゲは鋭く、軽く触れただけで刺さります。トゲにはぎざぎざした返しがあり、簡単に抜けません。またとても折れやすいので、抜こうとしても刺さっ

たところですぐ折れて、中に残ってしまいます。そのせいで痛いし、きれいに抜くには傷口を少し切らなければならなくて大変です。しかも刺さるときはたいてい数本まとめてささるので…… ここまで聞いたらもう触りませんね！

岩をひっくり返して生き物を探すときは、素手で岩の下に手を入れないこと。ウミケムシが隠れているかもしれません。もちろん観察した後は、岩を元通りに戻しておくことをお忘れなく。

サンゴを食べるので有名なオニヒトデ(写真5)も、昼間はサンゴの岩の裏側などに隠れていることがあります。これも体一面にトゲがあり、体内に毒があるので刺されるととても痛く、大きく腫れます。サンダル履きで海を歩いてはいけな

いのは、こういったトゲのある生き物が岩陰に隠れているからです。

怖い話ばかりで、海に出るのが嫌になったでしょうか？ しかし海の生き物は、基本的に向こうから人間に近寄って刺したり咬んだりすることはありません。事故が起こるのは、私たちの装備が不十分だったり、危険な生き物と知らずに不用意に近づいたり、捕まえようとした時。彼らにとって人間は、とても大きな天敵のようなものでしょう。こちらが見ているだけなら、危険なことはほとんどありません。自信がなければ、海に詳しいガイドと一緒に行きましょう。海でも山でも、自然の中に入るときは、生き物たちの居場所や生態をよく理解して、ちょっとお邪魔します、というくらいの気持ちで接するといいですね。

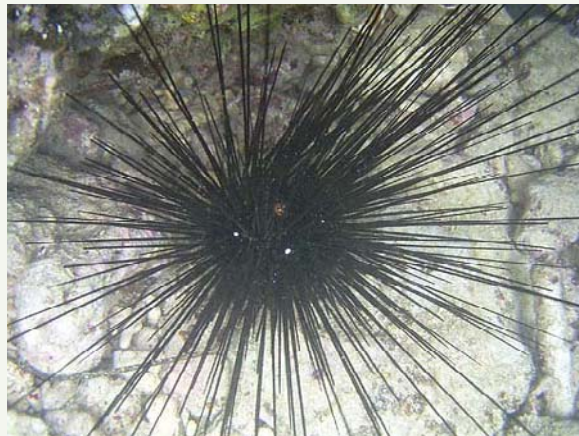


写真4 ガンガゼは敵のいる方にトゲを向ける



写真5 サンゴの天敵オニヒトデ